

まことの時トキわするゝなるべし。妻子を不便とをもうゆへ、現身にわかれん事をなげくらん。多生曠劫にしたしみし妻子には心とはなれしか。佛道のためにはなれしか。いつ(何時)も同シわかれなるべし。我法華經の信心をやぶらずして、靈山にまいりて返てみちびけかし。疑ナク云、念佛者と禪宗等無間と申は諍心あり。脩羅道にや墮ツべかるらむ。又法華經の安樂行品云、不ニ樂說人及經典過。亦不レ輕慢諸餘法師等云云。汝此經文に相違するゆへに天にすてられたるか。答云、止觀云、夫佛兩說。一攝二折。如ニ安樂行不稱長短。是攝義。大經執持刀杖乃至斬首是折義。雖與奪殊途。俱令ニ利益等云云。弘決云、夫佛兩說等者○大經執持刀杖者第三云護正法者不レ受ニ五戒不修威儀。乃至下文仙豫國王等文。又新醫禁云、若有ニ更爲ニ當斷ニ其首ニ。如是等文。竝是折伏。破法之人。一切經論不出此二等云云。文句云、問、大經明親付國王持弓帶箭摧伏惡人。此經遠離豪勢謙下慈善。剛柔碩乖。云何不異。答、大經偏論。折伏住一子地。何曾無攝受。此經偏明攝受頭破七分。非無折伏。各舉一端。適時而已等云云。涅槃經疏云、出家在家護法取其元心所爲。棄事存理。匡弘大教。故言護持正法。不拘小節。故言不修威儀。○昔時平而法弘。應持戒勿持